# 令和元年度 環境啓発施設等視察報告

1 いわき芸術文化交流館 Alios

環境啓発施設エコプラザ(仮称)の利用規則、運営の検討のため、いわき芸術文化交流館 アリオスを視察した。

アリオスは、まちづくり基本指針「新・いわき総合計画」に位置づけられ、市民参加による検討の中で、芸術文化の拠点として、あらゆる世代にわたる市民交流空間として整備する方針が立てられた。館の建設は、PFIの方式を採用したが、より良い施設運営の実現のため、運営は市が直営で行い、施設サービス、広報、音楽・演劇のプロデュースなどといった専門スタッフは市の嘱託職員として採用し、市の正規職員は総務や施設管理セクションに配置している。

福島県いわき市 (令和2年1月1日時点)

人口:339,641人(武蔵野市:146,871**人)・**世帯:143,656(武蔵野市:77,313)

面積:1232.02㎞(武蔵野市:10.98㎞)

JRいわき駅から徒歩15分、常磐自動車道いわき中央ICから車で10分。いわきアリオスは、いわき市役所本庁舎や国・県の合同庁舎などが立ち並ぶ利便性の高い場所に立地。約40年にわたって市民から愛された旧平市民会館の跡地に整備した本館と、旧音楽館を改修した別館により構成。



## アリオスの概要

	施設概要		
施設名	いわき芸術文化交流館アリオス		
開館	平成21年(2009年)5月(第1次オープン: 平成20年(2008年))		
面積	敷地面積;約11,228㎡、延床面積;約27,547㎡(地下2階·地上6階)		
設備	大ホール、中劇場、小劇場、大・中リハーサル室、スタジオ(4部屋)、カスケード(交流ロビー)、カンティーネ、アリオスラウンジ、キッズルーム、レストラン、ショップ、カフェ、総合案内、運営事務室、音楽小ホール、小練習室(4部屋)、中練習室(2部屋)、稽古場(4部屋)		
	運営		
開館時間 休館日	8時30分から22時30分まで 第2火曜日(施設受付等は毎週火曜日)		
運営者	PFI方式を取っているが、事業運営は質の高い施設サービスなどを担保するため、PFIから切り離し市直営とした。 設備運営管理等を指定管理者が担う		
職員体制	市職員:10人 嘱託職員:34人 外部委託(設備専門職):5人		
運営費	PFIによる15年間の全体事業費:約181億円/平準化すると年12億円		
来館者	約84万人/年 ホール・劇場・練習場の利用者+散歩・レストラン利用者など		

#### アリオス視察所見

市民交流のための空間としていくつかのフリースペースが設けられており、イベントなどの使用がない場合には、誰でも自由に利用できる。

飲食スペース、勉強スペース等に利用されている。

#### 【利用状況】

平成30年来館者数 845,328人 (内、ホール・劇場入場者数 204,173人) ⇒約64万人がフリースペースを利用

#### 【近隣の整備状況】

施設の正面には一体的に整備された平中央公園があり、1F・2Fから施設内に直接アプローチすることができる。キッズスペースもあるため、雨の日等は室内で遊ぶことができる。



← キッズルーム子ども向けのおもちゃなどが揃う子ども向けイベント会場となることもある



写真 いわき芸術文化交流館アリオスHPより

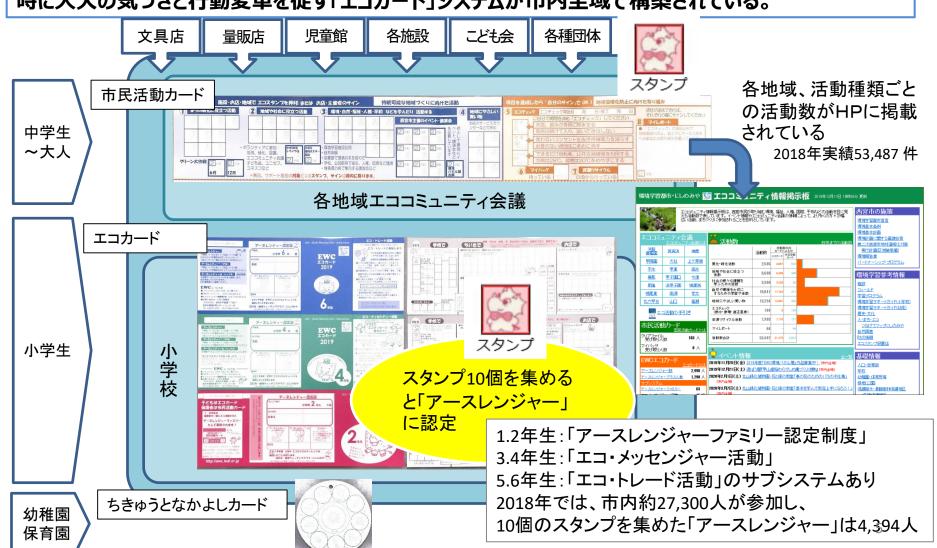


# ↑ アリオスラウンジ学生たちの勉強スペースとして人気← 劇場入り口付近のフリースペース公演の関係で貸し切りにすることもある

アリオス視察所見				
市民への劇場貸出	市民が劇場などを借りる場合、専門スタッフが1人つき、音響・照明などの分野との調整などを担う。			
市民主体のイベント開催	館内のフリースペースを利用した市民主催のイベントを複数開催している。 ⇒アーティストの藤浩志氏のコーディネートのもと運営した市民会議で出たアイディアで、 アイディアを出すだけではなく、実施主体を市民としたことで、今では市の支援を借りずに 実施可能とのこと。			
参考になったこと	①アリオスは隣接する平中央公園と「屋根のある公園」をキーワードに一体的に整備がされ、音楽・演劇鑑賞以外の利用者が大半を占める。 エコプラザ(仮称)でも芝生広場利用者が気軽に利用し、環境について触れる機会を多く提供できる可能性があるため、利用規則、ハード整備とあわせて検討していきたい。 ②施設利用する市民、市民団体についても、企画から実施までディレクター、コーディネーター中心に支援ができるよう検討していきたい。			

## 2 LEAF (NPO法人こども環境活動支援協会: Learning and Ecological Activities Foundation for children)

西宮市では環境に配慮した行動ができる市民の育成を目的として、子どもをターゲットに継続的な環境学習活動を支援するプログラム「2001年・地球ウォッチングクラブ・にしのみや」を1992年開始。現在は、子どもたちの活動に大人がスタンプを押すことで、子どもたちの活動の評価・見える化をはかり、同時に大人の気づきと行動変革を促す「エコカード」システムが市内全域で構築されている。



# LEAF 子どもを対象とした環境啓発事業の経緯について

年代	主な出来事	内容	体制
~ 1991年	各種体験事業実施 小学校理科副教材作成配布	各種啓発事業ごとに興味ある大人が 参加するが広がりが望めず 特定の教員と関係構築	職員+ボランティア若干名
1992年	2001年・地球ウォッチング クラブ・にしのみや(EWC) 開始 加盟:2千人~3千人	行政としての費用対効果を考え、子 どもを対象とした継続的な環境啓発 事業を開始。(参加は全世界から 可) 参加者用手帳等オリジナル制作	職員+ボランティア数十名
1995年	阪神大震災	予算大幅減	
1997年	エコカードシステムに移行加盟:3千人弱	子どもの活動にスタンプを押す大人の 応援団のネットワークづくり開始	職員+ボランティア数十名 (名簿は140名ほど)
1998年	公立小学生全員加盟 加盟:24千人~	こども会全員参加意向により半数の 市内小学生が参加となることから教 育委と相談、全市内小学生参加とし、 従来の「こどもグループ⇔事務局」から 「学校クラス⇔事務局」に変更	任意団体こども環境活動支援協会(LEAF)発足 職員による運営体制に移行
2002年	2011年・地球ウォッチング クラブ・にしのみやスタート		LEAF法人格取得
2003年	西宮市が環境学習都市宣言		
2011年	2021年・地球ウォッチング クラブ・にしのみやスタート		6

## LEAF 子どもを対象とした環境啓発事業の講師派遣・団体連携等について

年代	主な出来事	学校連携·講師派遣	団体連携
~ 1991年	小学校理科副教材作成配布	<ul><li>● 特定の教員と関係構築し、副教 材説明で学校授業に職員派遣</li></ul>	
1992年	2001年・地球ウォッチング クラブ・にしのみや(EWC) 開始 <b>⇒こどもたちに人気に</b>	<ul><li>● 学校カリキュラムに合うプログラム を個別対応</li></ul>	● ウォークラリーのポイントごとの 運営を参加各団体で実施
1995年	阪神大震災	予算大幅減	
1997年	任意団体発足準備	● 学校カリキュラムに応じた提供プログラム提案(小学校教頭会)	<ul> <li>団体発足協力依頼で企業まわり⇒企業、業界ごとの特性把握</li> <li>ウォークラリー規模拡大⇒コースをまるごと担う団体、各ポイントを担う団体・企業</li> </ul>
1998年	公立小学生全員加盟 加盟:24千人~	<ul><li> 企業プロジェクトにより学校出前 授業</li><li> LEAF発足;理事に教育長就任</li></ul>	<ul><li> 企業プロジェクト開始(衣・ 食・住・文具・びん・エネル ギー)</li></ul>
2002年	2011年・地球ウォッチング クラブ・にしのみやスタート		
2011年	2021年・地球ウォッチング クラブ・にしのみやスタート	2018年実績  ● 小学校3年生環境体験事業講師派遣 45件  ● 幼稚園・保育園・小学校他講師派遣 107件	<ul><li>にしのみやふるさとウォーク実行委員会で継続</li><li>その他企業連携(企業主催)事業実施</li></ul>

## LEAFの事業と施設での人員配置

		/1
==	 $\boldsymbol{\sigma}$	
	 (I)	
7		

環境学習都市・にしのみやへの取り組み					
	環境学習を推進するしくみづくり		⇒EWC事業、講師派遣		
	ひと	こづくり	⇒講師派遣		
	活動	動支援	⇒講師派遣		
	場:	づくり	平日	土日	
		西宮市立甲山自然環境センター指定管理者受託	3名	3名	夏季は+1名
		西宮市立甲子園浜自然観察センター管理運営業務受託	1名	2名	
		西宮市環境学習サポートセンター運営受託	1名	2名	
		西宮市貝類館受付案内・イベント業務受託	1名	2名	市学芸員2名
	ネットワークづくり				
	まちづくり				
企業会員と連携した環境教育事業		⇒団体連携			
国際協力事業					
広	広報·出版事業				

#### 課題

事務局長は代替わりしているが、各事業部門の職員の育成が課題。

#### 3 京エコロジーセンター

1997年COP3 (気候変動枠組条約第3回締約国会議) を記念して2002年に設立。市民に温暖化防止やごみ減量などの環境学習の場とプログラムを提供するとともに、環境学習を通して、地域で環境保全活動を行う人材の育成を行っている。太陽光発電パネルや雨水利用など、建物自体がひとつの展示にもなっている。京都市人口147万人に対して、設立後ののべ入館者が150万人を超えた。

こどもひろば



交流コーナー



3F

企画展示コーナー

2F



入口すぐの体験 コーナー <sub>雨 カ</sub>



新設海ごみの展示 具体的に見せる



さまざまな展示

1 F

## 京エコロジーセンターの概要

施設管理について					
北京					
指定管理料	京都市より公財)京都市環境保全活動推進協会が指定管理で受託。年150百万円				
無関心層へのアプローチ	若い母親向け広報誌「えこせん」を隔月5,500部制作し、市内施設で配布。				
市民参加の手法	環境ボランティア「エコメイト」育成。任期3年で施設運営をサポート。任期終了後は「京エコサポーター」としてエコメイト支援や地域のイベントで活動。				
施設維持管理	9時~5時でAM・PMに各2名エコメイト配置。				
評価の手法	質量の両方。質では事業ごとストーリー(こんな反応があった等)評価。入館者は年約95千人。前年 + 5 %増。				
	学習支援について				
エコメイト活動支援	連続6回養成講座を経て、登録。加えて水や食などテーマを設定したボランティア研修年8回実施。エコメイトの独自の企画でイベントも実施。エコメイト49名、京エコサポーター145名。				
エコメイト活動費	交通費1回500円で2,400千円+保険、印刷、外部講師費用他で合計5,000千円。				
	人材育成について				
エコメイト世代交代	2018年は20名が新規登録。人材は入れ替わるが年齢層は高止まりと思われる。				
職員等の研修	公益法人になって、職員任期が撤廃。以降職員は継続勤務を想定。広報手法や、社会 人基礎、ボランティアコーディネーション研修などを実施。				
大学などとの連携	龍谷大ボランティアセンターの一日体験、学部ゼミでの交流、京都教育大講義、祇園ごみゼロ大作戦のスタッフを束ねる大学生を研修担当など				
その他					
	JICA研修など、他にも様々な事業を展開。ただし、そのインパクトを示し切れていないところがあり、新しい価値を提供することが課題。				

#### 4 豊田市環境学習施設eco-T(エコット)

平成19年に豊田市渡刈クリーンセンターが稼働。隣接の環境学習施設eco-T(エコット)も開設。 eco-T は、「暮らしの環境学習施設」として、「市民が市民に伝える」をコンセプトに、豊田市42万人のエコライフの向上を目指している。

煙突の内径

世帯あたりのごみ排出の重量

スタッフによる展示を追加



渡刈クリーンセンター

展示内でのポイント探し

プラごみ排出量の表示



環境学習施設eco-T



## eco-Tの概要

たシグロについて					
施設活用について					
回遊性などの利便性の 工夫	館内の展示などに、「エコふくちゃん」を配して、それを見つける企画がある。ゆったり過ごしてもらえるようBGMを流している。クリーンセンター施設に「インタープリター」が工夫した補足説明展示を追加している。				
「人を介して」	「市民が市民に伝える」をコンセプトに、来館者に「インタープリター」が付き添って説明を受けながら学べるようにしている。				
	学習支援について				
小学校の見学	市内小学生75校のほとんどの4年生がバスで見学に来場。さらに詳しく学びたい学校には、「くらしの環境学習推進校」として見学前後に出前授業も実施。見学時は、子ども20名にインタープリター2名がつく体制。				
子ども協議会の今後	子ども向けのイベントが子どもが企画運営する子ども協議会がある。8月のキッズタウンでは、 こどもたちが来場者に説明。ジュニアインタープリター育成講座を小中学生対象に2007年から9年間実施。活躍の場を設定するのが難しく休止。				
	人材育成について				
インタープリターの育成	チラシや市報で募集し、6回連続の「展示解説ボランティア育成講座」を開催。2018年までに91名が登録し、約半分が実質的に活動。インタープリターの知人や、豊田シニアアカデミー卒業生、トヨタ自動車関連OBなどが応募。				
見学や子ども協議会の 卒業生	具体的な取り組みや筋道は見えていない。				
人材育成の費用	インタープリター交通費1回2千円。				
	その他				
	今年度から来館で得られる地域通貨の対象外となったため、来館者減少。量から質にシフトし、行動変容を促す企画重視としつつ、外部への派遣にも注力。				

# 参考になったこと、課題と感じたこと

	LEAF	京エコロジーセンター	Eco-T
参考になったこと	・市全域での環境活動を団体 連携で展開できている元は、子 ども向けに人気の高いプログラ ムをキラーコンテンツとしていくつ か持っていたことに起因している。	・エコメイト育成のための一定の講座を保有している。その中には、 講座には環境分野だけではなく、 伝えるためのコミュニケーションも含まれている。 ・職員育成のためのプログラムもあり、ボランティアコーディネーション検定等も活用している。	・インタープリター育成のための一定の講座を保有している。講座には施設理解だけでなく「紙芝居」で伝えることも含んでいる。
武蔵野市の課題と感じたこと	・関わるボランティア育成のためには、時間・資源が必要である。 ・関わるボランティア育成のための連続講座をパッケージ化して保有する必要がある。 ・連続講座には、「伝える」ための手法なども含まれること。 ・エコプラザ(仮称)で実施するプログラムには、参加した子どもたちが「おもしろい!」と感じて、継続的に参加したいと思えるようなキラーコンテンツをつくっていくことが必要。		